



CHAPTER 2

Cisco Unified Communications Manager でのデバイス タイプの設定

Cisco UC Integration for Cisco WebEx Connect に関する Cisco Unified Communications Manager での設定作業は、デバイス タイプを Cisco Unified Communications Manager に追加することと、電話番号を設定することです。作業を始める前に、Cisco Unified Communications で次のサービスを有効にして、その設定が適切に機能することを確認する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager サービス。Cisco Unified Communications Manager サービスの詳細については、次の URL にある資料を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_general_information.html

- Cisco Trivial File Transfer Protocol (TFTP; 簡易ファイル転送プロトコル) サービス。Cisco TFTP サービスの詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

- Cisco CTIManager サービス。Cisco CTIManager サービスの詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

- Cisco Unified Communications Manager IP Phone (CCMCIP) サービス。



(注)

管理者は CCMCIP サービスを制御しません。これはデフォルトでオンにされているため、管理者は、クライアントで CCMCIP サービスに CUCM ユーザを使用するように設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の準備

Cisco UC Integration for Cisco WebEx Connect には、Client Services Framework という新しい Cisco Unified Communications Manager デバイス タイプが必要です。Cisco Unified Communications システムにインストールされている Cisco Unified Communications Manager のリリースによっては、Cisco Options Package (COP) ファイルを使用して Cisco Unified Communications Manager にパッチを適用する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager に Client Services Framework デバイス タイプが存在しない場合は、COP ファイルを実行する必要があります。COP ファイルは Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで実行します。COP ファイルを適用した後、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバを再起動し、続いてその他すべてのサーバを再起動する必要があります。

COP ファイルは Administration Toolkit から入手できます。Administration Toolkit にアクセスするには、次の URL にある [Download Software] ページから [Cisco UC Integration for Cisco WebEx Connect] に移動します。

[http://www.cisco.com/cisco/software/release.html?mdfid=282811017&flowid=5464&softwareid=282888767&release=7.1\(6\)&rellifecycle=&relind=AVAILABLE&reltype=latest](http://www.cisco.com/cisco/software/release.html?mdfid=282811017&flowid=5464&softwareid=282888767&release=7.1(6)&rellifecycle=&relind=AVAILABLE&reltype=latest)

詳細については、Cisco Unified Communications Manager のリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/rel_notes/7_0_1/cucm-rel_notes-701.html#wp684478

ユーザのデバイスおよび電話番号の作成

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で [Device] > [Phone] を選択します。
- ステップ 2 [Add New] を選択します。
- ステップ 3 [Phone Type] ドロップ ダウン ボックスから、[Cisco Unified Client Services Framework] を選択します。
- ステップ 4 [Next] を選択します。
- ステップ 5 [Phone Configuration] ウィンドウで、次のように電話機の情報を入力します。

フィールド	説明
Device Information	
Device Name	Cisco Unified Client Services Framework デバイスを識別する名前を入力します。名前には、英数字、ピリオド、ハイフン、下線を使用できます。デバイス名は、ユーザのユーザ ID に関連付ける必要はありません。
Description	(オプション) デバイスの説明を入力します。
Device Pool	電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日時グループ、ソフトキー テンプレート、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する特性のセットを定義します。
Common Device Configuration	(オプション) このデバイスに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられる属性 (サービスまたは機能) が含まれます。
Phone Button Template	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートによって電話機のボタンの設定が決定され、各ボタンで使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) が特定されます。
Common Phone Profile	電話プロファイルを特定する名前を選択します。
Calling Search Space	(オプション) パーティションのリストから選択します。コーリングサーチ スペースは、この電話番号からコールを発信できる番号を検索するための、パーティションのリストで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Media Resource Group List	(オプション) このウィンドウには、メディア リソース グループが一覧表示されます。このリストには、以前に定義されたメディア リソース グループのみが含まれ、最高から最低の優先順に一覧表示されます。

フィールド	説明
User Hold MOH Audio Source	(オプション) ユーザが保留操作を起動したときに再生するサウンドを選択します。
Network Hold MOH Audio Source	(オプション) ネットワークが保留操作を起動したときに再生するサウンドを選択します。
Location	RSVP ポリシー設定を変更する場所を選択します。
User Locale	(オプション) エンドユーザをサポートする、言語とフォントを含む一連の詳細情報を選択して指定します。
Network Locale	(オプション) ゲートウェイに関連付けられるロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンと音の周期の定義が含まれます。 注: すでにインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワーク ロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワーク ロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。
Device Mobility Mode	このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにするか、デフォルトのデバイス モビリティ モードを使用する場合は、[Default] を選択します。デフォルトの設定では、デバイスの Device Mobility Mode サービス パラメータの値を使用します。
Owner User ID	(オプション) 割り当てられた電話機ユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) で、このデバイスから発信されるすべてのコールに対して記録されます。 注: エクステンション モビリティを使用する場合は、このフィールドを設定しないでください。エクステンション モビリティでは、デバイスのオーナーはサポートされていません。 注: オーナー ユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なっていてもかまいません。
Mobility User ID	(オプション) このデュアルモード フォンを割り当てるユーザのユーザ ID を選択します。 注: モバイル ユーザ ID 設定は、デュアルモード フォンのモバイル コネクト機能とモバイル ボイス アクセス機能に使用されます。 注: オーナー ユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なっていてもかまいません。
Primary Phone	(オプション) IP Communicator や Cisco Unified Communications Integration に関連付ける物理的電話機を選択します。プライマリ電話機を選択すると、アプリケーションが使用するデバイス ライセンスユニットが少なくなり、「付属」ライセンス (プライマリ電話機に対して) と見なされます。

フィールド	説明
Use Trusted Relay Point	<p>Cisco Unified Communications Manager は、このメディア エンドポイントによって Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) デバイスを挿入するかどうかをイネーブルまたはディセーブルにします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : この値を選択した場合、デバイスはこのデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [Use Trusted Relay Point] 設定を使用します。 • Off : このデバイスで、TRP の使用をディセーブルにする場合にこの値を選択します。この設定によって、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [Use Trusted Relay Point] 設定が上書きされます。 • On : このデバイスで、TRP の使用をイネーブルにする場合にこの値を選択します。この設定によって、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [Use Trusted Relay Point] 設定が上書きされます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスは信頼できるリレーポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p>
Always Use Prime Line	<p>次のいずれかのオプションをイネーブルまたはディセーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : Cisco Unified Communications Manager は Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。 • Off : 電話機がアイドルで、いずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からのコールに応答できません。 • On : 電話機がアイドル (オフフック) で、いずれかの回線でコールを受信すると、そのコールにプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、電話機ユーザはそれらの他の回線を選択して、これらのコールに応答する必要があります。
Always Use Prime Line for Voice Message	<p>次のいずれかのオプションをイネーブルまたはディセーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • On : 電話機がアイドルの場合、電話機のユーザが電話機の [Messages] ボタンを押すと、ボイスメッセージを受信するために電話のプライマリ回線がアクティブ回線になります。 • Off : 電話機がアイドルの場合、電話機の [Messages] ボタンを押すと、ボイスメッセージのある回線から、ボイスメッセージシステムを自動的にダイヤルします。Cisco Unified Communications Manager は常にボイスメッセージのある最初の回線を選択します。電話機のユーザが [Messages] ボタンを押したときに、ボイスメッセージがある回線がない場合、プライマリ回線が使われます。 • Default : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。

フィールド	説明
Calling Party Transformation CSS	<p>(オプション) この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択する発信側変換 CSS に、このデバイスに割り当てる発信側変換パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント: コールが行われる前に、デバイスは番号分析を使用して、変換を適用する必要があります。[Calling Party Transformation CSS] を [None] に設定した場合、変換は一致せず、適用されません。発信側変換パターンをルーティングに使用されていない Null 以外のパーティションに設定していることを確認してください。</p>
Geolocation	<p>(オプション) このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する未指定の位置情報を選択します。</p>
Use Device Pool Calling Party Transformation CSS	<p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定されている発信側変換 CSS を使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスを選択しない場合、デバイスは [Phone Configuration] ウィンドウで選択した発信側変換 CSS を使用します。</p>
Ignore Presentation Indicators (internal calls only)	<p>コール単位でコール表示制限を設定する場合に、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は内部コールに対して受信したすべての表示制限を無視します。</p>
Allow Control of Device from CTI	<p>Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ テレフォニー インテグレーション) サーバを使用して、ユーザのデスクフォンを Cisco UC Integration for Cisco WebEx Connect で制御およびモニタする場合は、このオプションを選択します。</p> <p>ユーザが Standard CTI Enabled ユーザ グループに追加されるようにしてください。</p>
Logged Into Hunt Group	<p>電話機が現在ハント リスト (グループ) にログインしていることを示す場合はこのボックスをオンにします。電話機をハント リストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン (またはオフ) にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、電話機をハント リストにログインまたはログアウトします。</p>
Remote Device	<p>SCCP パイプで、リモート サイトへの接続時間の遅延が発生している場合に、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager に、電話デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルするように指示します。</p> <p>ヒント: この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機で、シグナルの遅延が発生している場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。ほとんどのユーザにこのオプションは必要ありません。</p>

フィールド	説明
Protocol Specific Information	
Packet Capture Mode	<p>この設定値は、暗号化のトラブルシューティングを行う場合にだけ使用します。パケット キャプチャを実行すると、CPU の使用率が上昇して、コール処理が妨げられる可能性があります。ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None : このオプションは、パケット キャプチャが発生しないことを示します (デフォルト設定)。パケット キャプチャが完了したら、この設定を設定します。 • Batch Processing Mode : Cisco Unified Communications Manager は復号化されたメッセージまたは暗号化されていないメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは、毎日新しい暗号キーを使用して、新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager はファイルを 7 日間保管し、ファイルを暗号化するキーも安全な場所に格納します。Cisco Unified Communications Manager は PktCap 仮想ディレクトリにファイルを保存します。1 つのファイルの中に、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケットのprotocols、メッセージの長さ、およびメッセージが保持されます。TAC のデバッグ ツールでは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定された日付を使用して、キャプチャされたパケットを保持している暗号化済みファイルを 1 つだけ要求します。同様に、暗号化されているファイルを復号化するためのキー情報も要求します。
Packet Capture Duration	<p>(オプション) この設定値は、暗号化のトラブルシューティングを行う場合にだけ使用します。パケット キャプチャを実行すると、CPU の使用率が上昇して、コール処理が妨げられる可能性があります。</p> <p>このフィールドには、1 つのパケット キャプチャセッションに割り当てる時間の上限 (分単位) を指定します。デフォルト設定は 0 で、範囲は 0 ~ 300 分です。</p> <p>パケット キャプチャを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャが完了すると、値 0 が表示されます。</p>
Presence Group	<p>エンド ユーザのプレゼンス グループを選択します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンド ユーザ、アプリケーション ユーザを指定します。</p> <p>プレゼンス グループのデフォルト値は、Standard Presence グループを指定し、インストール時に設定されます。Cisco Unified Communications Manager Administration に設定されたプレゼンス グループはドロップダウン リストボックスにも表示されます。</p>
SIP Dial Rules	<p>(オプション) 適切な SIP ダイアル ルールを選択します。SIP ダイアル ルールは、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、7960 のローカル ダイアル プランを提供するため、ユーザは、コールが処理される前に、キーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。</p> <p>SIP を実行している IP 電話にダイアル ルールを適用しない場合は、[SIP Dial Rules] フィールドを [<None>] に設定したままにします。これは、コールが処理される前に、ユーザがダイアル ソフトキーを使用するか、タイマーが切れるまで待つ必要があることを示します。</p>

フィールド	説明
MTP Preferred Originating Codec	(オプション) SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。
Device Security Profile	電話機に必要とするセキュリティ プロファイルを選択します。 Client Services Framework- Standard SIP Secure Profile を選択する場合は、次の手順に従います。 1. [Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information] セクションに、証明書および認証情報を入力します。 2. [Generate String] を選択します。 3. [Authentication String] フィールドの内容を、ユーザに電子メールで送信します。
Rerouting Calling Search Space	(オプション) 再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 参照元の再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。再ルーティング コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージによって要求を拒否します。 リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。
SUBSCRIBE Calling Search Space	(オプション) ドロップダウン リスト ボックスから、電話機のプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定するすべてのコーリング サーチ スペースが [SUBSCRIBE Calling Search Space] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 ドロップダウン リストから、エンド ユーザに別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースのデフォルトは [None] に設定されます。 この目的で明示的に SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定する場合と同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。 プレゼンス機能でサポートされる SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、Cisco Unified Communications Manager が電話機から発信されたプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。この設定では、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求のコール処理検索スペースと別にコーリング サーチ スペースを適用できます。
SIP Profile	デフォルトの SIP プロファイルまたは以前に作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルでは、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Do Not Disturb (サイレント) 制御など、電話機の特定の SIP 情報を提供します。
Digest User	(オプション) デフォルトの SIP プロファイルまたは以前に作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルでは、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Do Not Disturb (サイレント) 制御など、電話機の特定の SIP 情報を提供します。

フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>このフィールドを使用して、H.323 がサポートしない機能（保留や転送など）を実装するために、メディア ターミネーション ポイントを使用するかどうかを指示します。</p> <p>機能を実装するために MTP を使用する場合は、[Media Termination Point Required] チェックボックスをオンにします。機能を実装するために MTP を使用しない場合は、[Media Termination Point Required] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアントと H.245 の機能セットをサポートしない H.323 デバイスの場合、または単一のソースから、メディア ストリーミングを終了させる場合のみ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして、MTP を必要とし、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになる場合、コールはオーディオのみになります。</p>
Unattended Port	<p>このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>
Require DTMF Reception	<p>この電話機と SIP および SCCP を実行する電話機の DTMF 受信が必要な場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>注： Cisco Unified Mobility 機能の設定で、SIP トランク（Intercluster Trunk (ICT; クラスタ間トランク）またはゲートウェイ）経由で IP 電話のリモートの宛先としてクラスタ間 DN を使用する場合、エンタープライズ機能アクセス ミッドコール機能に重要な、DTMF 番号をアウト オブバンドで受信できるように、このチェックボックスをオンにします。</p>
Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information	
Certificate Operation	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Pending Operation : 証明書の操作が行われない場合に表示されます（デフォルトの設定）。 • Install/Upgrade : 電話機に新しい証明書をインストールするか、既存のローカルで有効な証明書をアップグレードします。 • Delete : 電話機に存在するローカルで有効な証明書を削除します。 • Troubleshoot : Locally Significant Certificate (LSC; ローカルで有効な証明書) または Manufacture Installed Certificate (MIC; 製造元でインストールされる証明書) を取得し、CAPF トレース ファイルで証明書資格情報を表示できます。電話機に両方の証明書タイプが存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は、証明書のタイプごとに 1 つずつ、2 つのトレース ファイルを作成します。 <p>[Troubleshooting] オプションを選択して、電話機に LSC または MIC が存在することを確認できます。</p>

フィールド	説明
Authentication Mode	<p>このフィールドでは、電話機が CAPF 証明書の操作時に使用する認証方法を選択できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • By Authentication String : ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 • By Null String : ユーザの介入なしで、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 このオプションではセキュリティが確保されません。したがって、セキュアな閉じた環境の場合にだけこのオプションを選択することを強く推奨します。 • By Existing Certificate (Precedence to LSC): 電話機に Manufacture Installed Certificate (MIC); 製造元でインストールされる証明書) または Locally Significant Certificate (LSC); ローカルで有効な証明書) が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。電話機に LSC が存在する場合、電話機に MIC が存在するかどうかに関係なく、LSC によって認証が行われます。電話機に MIC と LSC が存在する場合、LSC によって認証が行われます。電話機に LSC が存在しないが、MIC が存在する場合、MIC によって認証が行われます。 このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。 MIC と LSC が同時に電話機に存在できる場合でも、電話機が CAPF への認証に使用する証明書は常に 1 つだけです。優先されるプライマリ証明書が何らかの理由で破損した場合、または別の証明書を使用して認証を受ける場合は、認証モードを更新する必要があります。 • By Existing Certificate (Precedence to MIC) : 電話機に LSC または MIC が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。電話機に MIC が存在する場合、電話機に LSC が存在するかどうかに関係なく、MIC によって認証が行われます。電話機に LSC が存在するが、MIC が存在しない場合、LSC によって認証が行われます。 このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。 <p>注 : [Phone Security Profile] ウィンドウで設定される CAPF 設定は、[Phone Configuration] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと連携します。</p>

フィールド	説明
Authentication String	<p>(オプション) [Authentication Mode] ドロップダウン リスト ボックスの [By Authentication String] オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力するか、[Generate String] ボタンをクリックして、文字列を生成します。文字列には 4 桁から 10 桁含まれていることを確認します。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、削除、トラブルシューティングするには、電話機ユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
Key Size (Bits)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから証明書のキー サイズを選択します。デフォルト設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。</p> <p>デフォルトの設定より大きいキー サイズを選択すると、電話機は、キーの生成に必要なエントロピーを生成するために時間がかかります。キーの生成を低い優先順位で設定すると、操作の実行中に、電話機が機能します。電話機のモデルによっては、キーの生成が完了するまでに、30 分以上かかることがあります。</p> <p>注 : [Phone Security Profile] ウィンドウで設定される CAPF 設定は、[Phone Configuration] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと連携します。</p>
Operation Completes By	<p>(オプション) このフィールドは、[Install/Upgrade]、[Delete]、[Troubleshoot Certificate Operation] オプションをサポートし、操作を完了する必要がある日時を指定します。</p> <p>表示される値は、パブリッシャ データベース サーバに適用されます。</p>
Extension Information	
Enable Extension Mobility	
Log Out Profile	(オプション)
MLPP Information	
MLPP Domain	<p>(オプション) MLPP ドメインのドロップダウン リストから、このデバイスに関連付けられる MLPP ドメインを選択します。[None] 値のままにした場合、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から、その MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメイン設定がない場合、このデバイスは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。</p>
Do Not Disturb	
Do Not Disturb	<p>電話機の取り込み中をイネーブルにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

フィールド	説明
DND Option	<p>電話機の DND をイネーブルにすると、このパラメータによって、DND 機能の着信コールを処理する方法を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Call Reject : このオプションは、着信コールの情報をユーザに提示しないことを指定します。DND Incoming Call Alert パラメータの設定に応じて、電話機はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。 • Ringer Off : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報がデバイスに表示されるため、ユーザはコールを受け付けることができます。 • Use Common Phone Profile Setting : このオプションは [Common Phone Profile] ウィンドウの [DND Option] 設定をこのデバイスに使用することを指定します。 <p>注 : SCCP を実行している 7940/7960 電話機の場合、[Ringer Off] オプションのみを選択できます。携帯デバイスとデュアルモード電話機の場合、[Call Reject] オプションのみを選択できます。携帯デバイスまたはデュアルモード電話機で [DND Call Reject] をアクティブにすると、デバイスにコール情報が表示されません。</p>
DND Incoming Call Alert	<p>(オプション) [DND Ringer Off] または [Call Reject] オプションをイネーブルにした場合、このパラメータによってコールの表示方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None : このオプションは、[Common Phone Profile] ウィンドウの [DND Incoming Call Alert] 設定をこのデバイスに使用することを指定します。 • Disable : このオプションは、コールのビープと点滅通知の両方をディセーブルにしますが、[DND Ringer Off] オプションの場合、引き続き着信コール情報が表示されます。[DND Call Reject] オプションの場合、コールアラートが表示されず、デバイスに情報が送信されません。 • Beep Only : 着信コールの場合、このオプションによって、電話機でビープ音のみが再生されます。 • Flash Only : 着信コールの場合、このオプションによって、電話機で点滅アラートのみが表示されます。



(注) Cisco UC Integration for Cisco WebEx Connect では、セキュアな電話機設定はサポートされていません。

- ステップ 6** [Save] を選択します。
- ステップ 7** [Apply Config] をクリックして、設定をアクティブにします。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
- ステップ 9** [Phone Configuration] ウィンドウの [Association Information] セクションで [Add a new DN] (電話番号) リンクを選択します。
- ステップ 10** [Directory Number Configuration] ウィンドウで、電話番号の情報を入力します。

- ステップ 11** [Save] を選択します。
- ステップ 12** [Directory Number Configuration] ウィンドウで、[Associate End Users] を選択します。
- ステップ 13** [Find and List Users] ウィンドウでユーザを検索し、ユーザを選択して [Add Selected] を選択します。
- ステップ 14** [Save] を選択します。
- ステップ 15** Cisco Unified Communications Manager Administration で [User Management] > [End User] を選択します。
- ステップ 16** [Find and List Users] ウィンドウでユーザを検索し、ユーザを選択します。
- ステップ 17** [Device Associations] グループの [Controlled Devices] リスト ボックスに、そのユーザのデバイスが表示されていることを確認します。

Windows Vista の QoS パケットマーキング

Quality of Service (QoS) パケット マーキングには、Active Directory 2003 ドメイン内の Windows Vista コンピュータの管理者権限が必要です。そのため、ユーザはこのオペレーティング システムの制限を克服し、Active Directory 2003 ドメイン上の Windows Vista への CSF 配備の QoS パケット マーキングをイネーブルにするために、管理者権限が必要です。

Active Directory 2008 ドメイン内の Windows Vista コンピュータの場合、次の手順に説明するように、グループ ポリシーを使用して、この制限を克服できます。

Windows Vista での Active Directory 2008 による CSF のパケット マーキングのイネーブル化

手順

- ステップ 1** グループ ポリシー管理エディタ アプリケーションを起動します。
- ステップ 2** [User Configuration] ノードを展開します。
- ステップ 3** [Policies] > [Windows Settings] で、[Policy-based QoS] を右クリックし、[Create new policy] を選択します。
- たとえば、Cisco CSF UDP というポリシーを作成します。
- ステップ 4** [Specify DSCP Value] をオンにし、値として 46 と入力し、Expedited Forwarding (EF; 緊急転送) としてトラフィックをマークします。
- ステップ 5** [Next] を選択します。
- ステップ 6** [Only applications with this executable name] オプションを選択し、次の実行可能ファイル名を入力します。
- cucsf.exe
- ステップ 7** [Next] を選択します。
- ステップ 8** QoS ポリシーを任意のソース IP アドレスと宛先 IP アドレスのペアに適用することを指定します。これを実行するには、次のオプションを選択します。
- Any source IP address
 - Any destination IP address
- ステップ 9** [Next] を選択します。

ステップ 10 QoS ポリシーを適用するプロトコルを選択し、トラフィックのソースと宛先のポートまたはポート範囲を指定します。

たとえば、UDP を選択し、[From any source port] と [To any destination port] を選択します。

ステップ 11 [Finish] を選択します。

ステップ 12 作成したグループ ポリシーをクライアント コンピュータに適用します。

上の例のクライアント コンピュータに適用される設定は次のようになります。

```
[HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Policies¥Microsoft¥Windows¥QoS¥Cisco CSF UDP]
"Version"="1.0"
"Application Name"="cucsf.exe"
"Protocol"="UDP"
"Local Port"="*"
"Local IP"="*"
"Local IP Prefix Length"="*"
"Remote Port"="*"
"Remote IP"="*"
"Remote IP Prefix Length"="*"
"DSCP Value"="46"
"Throttle Rate"="-1"
```
